



一人ひとりの乳癌患者さんに最善の治療を届けるために

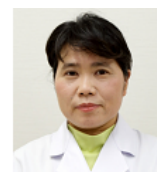
2022年12月26日

※本コンテンツは、医師の方を対象とし、当医療機関についての理解を深めていただけるよう作成しているものであり、一般の方を対象とする宣伝・広告等を目的としたものではありません。

はじめまして、九州がんセンター 乳腺科の徳永 えり子(とくなが えりこ)です。

乳癌は日本人女性が最も多くかかるがんです。

乳癌にかかる女性の数は年々増加し、最新の統計では、日本人女性の9人に一人が生涯の間に乳癌にかかる割合とされています。



徳永 えり子
乳腺科
部長

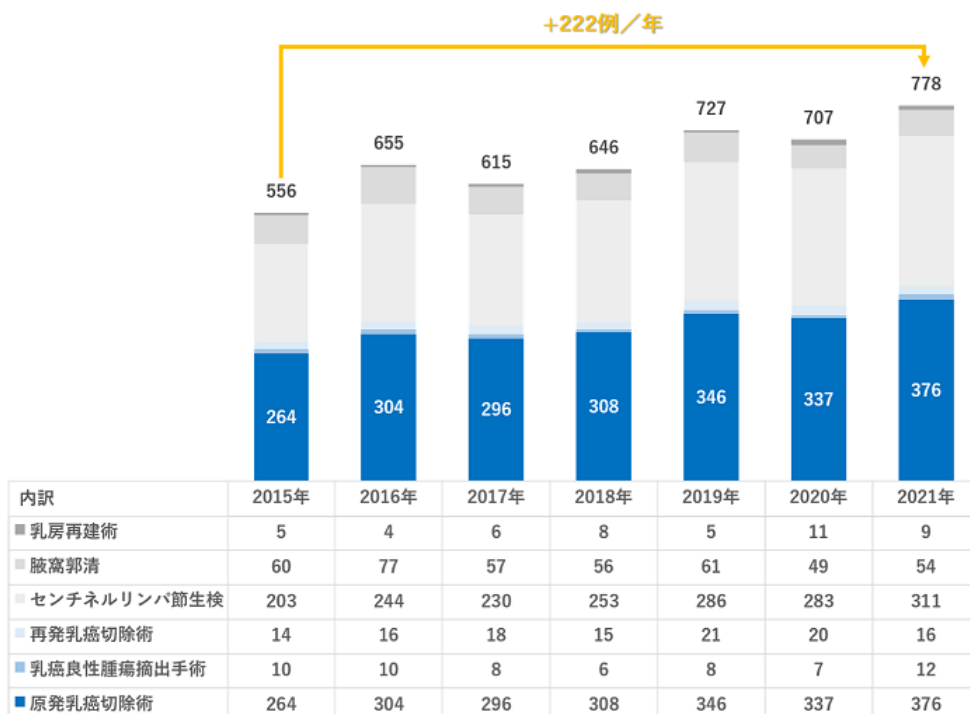
当科の基本方針

私たち乳腺科では、「病む人の気持ちを」、そしてご家族の気持ちを尊重し、温かく、思いやりある、最良のがん医療を目指すという九州がんセンターの基本理念に沿った診療を行うとともに、がん専門病院として我が国の乳癌に関する医学・医療の発展に貢献するためにも、国内、国際的な治験や臨床試験に積極的に参加し、日常の臨床データを効果的に集積・解析し、乳癌の治療の向上に結びつくような臨床研究をたゆみなくおこなっていくことを基本方針としています。

乳癌という疾患の特徴上、対象となる患者さんのほとんどは女性であり、乳房を扱う治療においては、精神的および外観的な面に関しても十分配慮しております。

治療の現状や実績

原発性乳癌の手術症例数は年間約350例です。



乳癌の手術は乳房全切除と乳房部分切除術の大きく2つに分けられます。

乳癌の進行度や大きさなど癌の状況と、患者さんの希望とを十分に考慮して決定しています。

乳房全切除後に乳房再建を行う患者さんもおられます。

乳房再建については、その適応、方法、再建時期などについて、当院形成外科医師とも十分連携、相談して決めていきます。

腋窩リンパ節に関しては、手術前にリンパ節転移がないと思われる場合にはセンチネルリンパ節生検を行い、その結果で腋窩リンパ節郭清を行うかどうかを評価しています。

患者さんの予後と術後のQOLの両面を重視し、適切なリンパ節の切除の範囲について最新の概念を取り入れるように心がけています。

乳癌性質によって柔軟に対応

乳癌は、乳癌の生物学的性質(グレードやサブタイプなど)によって、予後(再発率・生存期間など)や薬物療法の効果が異なります。

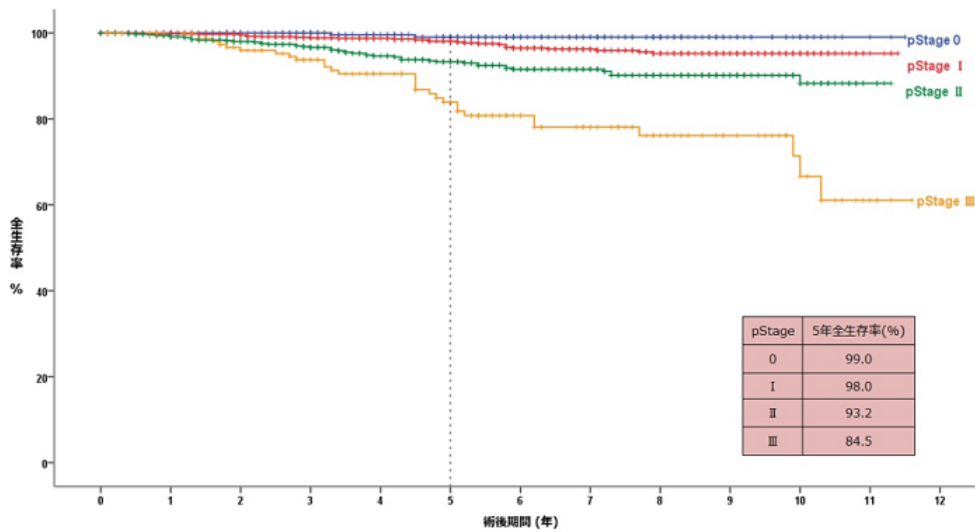
そのため、術前や術後に再発リスクを低減するための治療も進行度や乳癌の性質によって異なります。

乳癌の治療はがん医療の中でも最も個別化治療(一人ひとりの患者さんの状況に応じて最善と思われる治療を行うこと)が進んでいる分野です。

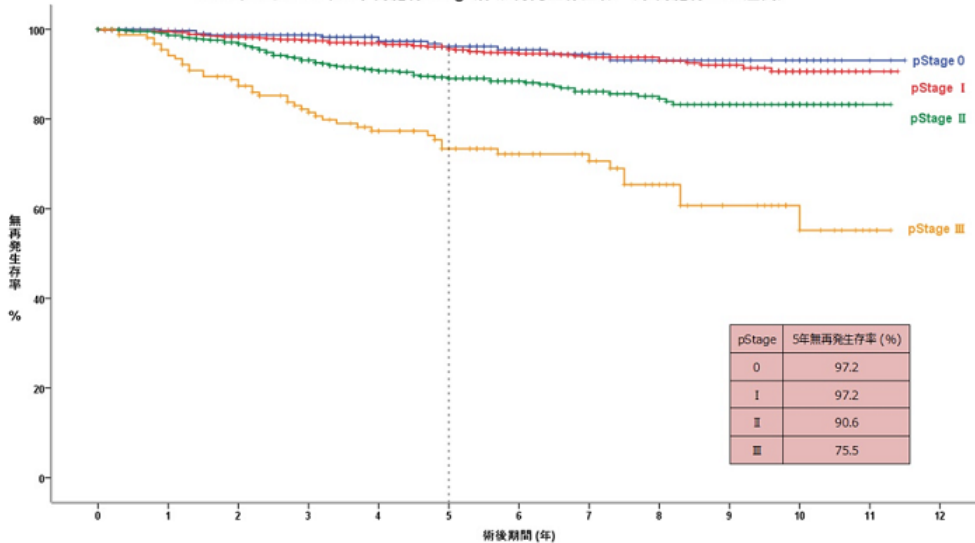
進行度や乳癌の性質に応じて適切に治療することで、再発率は低下し、生存率は向上してきています。

また、再発・転移乳癌に対しても、これまでの多くのエビデンスに基づき、また、患者さんの希望やおかれた状況も十分に吟味しながら、それぞれの患者さんに最善の治療を実践するよう心掛けております。

2005年から2014年に手術施行 Stage別 全生存曲線 (手術施行2301症例)



2005年から2014年に手術施行 Stage別 無再発生存曲線 (手術施行2301症例)



新しい治療方法の開発

新しい治療薬が登場し、治療の選択肢は増えてきました。

また、ゲノム医療の進歩等により、Oncotype Dx, BRCA1/2遺伝子検査、遺伝子パネル検査など、様々なタイプの遺伝子検査を行うことも可能になってきました。

遺伝性乳癌に対する様々な対応、若い患者さんに対する妊孕性温存なども、様々な職種、地域の医療機関と連携して行っております。

国内・外で新規薬剤の開発が進み、悪性腫瘍の治療成績は向上してきています。

世界に遅れをとらないためにも、国際的に実施される治験(グローバル試験)に日本も参加することが非常に重要となります。

当科では、日本における迅速な新規薬剤の保険承認に貢献すべく、参加可能なグローバル試験に積極的に参加しています。

治験に関しても地域の医療機関との連携が非常に重要であり、最新の情報を適時提供できるよう努めています。

患者視点を忘れずに治療の提供を

がんの治療においても、病気だけを診るのではなく、“病む人”を全人的に診ることが大切です。

患者さんは“病気をもった生活者”であるという視点を忘れず、病院外での生活の各場面にも配慮した治療の提供を目指しています。

がんの生物学的な側面だけではなく、患者さんの心理的、社会的、倫理的、経済的な側面にも留意した医療実現のため、様々な職種が協力し、チーム医療、全人的医療の実践に取り組んでいます。

当コンテンツ・当院に関するアンケートにご協力ください

Q1. 今回のコンテンツを見て、さらなる情報について知りたいですか。**必須**

- 該当しそうな患者がいるので相談したいと思った。
- 今のところ該当患者はいないが、発見した場合は紹介を前向きに検討したい。
- 本トピックで実際の勉強会があったら参加してみたい。
- 相談や勉強会までは不要だが、コンテンツがあれば引き続き見たい。
- とくに興味はない。



徳永 えり子(とくなが えりこ)

乳腺科 部長

■出身大学
九州大学(平成6年)

■専門分野
乳腺疾患全般

■資格
日本外科学会(専門医)
日本乳癌学会(専門医、指導医)
日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)
日本臨床腫瘍学会(がん薬物療法専門医)

■活動
日本乳癌学会(評議員、理事、乳がん患者向けガイドライン作成小)

委員会副委員長)

■所属学会

日本外科学会

日本乳癌学会

日本癌学会

日本癌治療学会

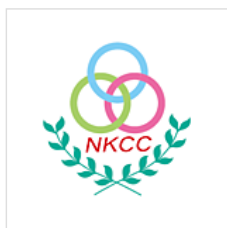
日本臨床腫瘍学会

日本乳癌検診学会

日本がんサポーターケア学会

American Society of Clinical Oncology 他

お問い合わせ先



独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター がん相談支援センター(地域連携室)

TEL:092-542-8532 8:30~16:00

FAX:092-541-3390

メールアドレス:601-keieikikaku@mail.hosp.go.jp

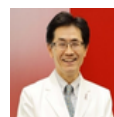
ホームページ:https://kyushu-cc.hosp.go.jp/index.html

独立行政法人国立病院機構 九州がんセンターの記事

【限定公開】第12回九州がんセンター病病・病診連携の会

藤 也寸志 / 院長

2022年11月4日



診療科の垣根を超えたオール九州がんセンターで挑む膵がん治療

古川 正幸 / 副院長消化器・肝胆膵内科

2022年6月1日



頭頸部癌治療に要求されるアートとサイエンスの癒合を目指した最善の治療を患者さんに届けたい

益田 宗幸 / 頭頸科部長・統括診療部長

2021年12月21日



がん患者をトータルに診る腫瘍内科医の役割

江崎 泰斗 / 臨床研究センター長 消化管・腫瘍内科 部長

2021年8月11日



[独立行政法人国立病院機構 九州がんセンターの記事を見る](#) >

[地域医療トップに戻る](#) >

地域連携のご担当者様へ - 情報発信しませんか？

本サービスは、地域の中核となる病院とかかりつけ医の連携を目的として、病院が取り組んでいる医療の取り組みを記事としてお伝えしています。病院から地域のかかりつけ医の先生方への情報発信についてご興味がある方は、ぜひお問い合わせください。